

自立活動年間指導目標

※「自立活動年間指導目標設定に向けた指導すべき課題の抽出・関連整理シート」(関連の整理の図式化の作業を含む)の内容を踏まえて、年間指導目標及び目標を達成するために必要な項目(関連する項目)を記入する。

学部・学年	関連する項目	年間指導目標
小 1		
小 2		
小 3		
小 4		
小 5		
小 6		
中 1		
中 2		
中 3		
高 1		
高 2		
高 3		

自立活動の内容(6区分27項目)

- 1 健康の保持
 - (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。
 - (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。
 - (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。
 - (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。
 - (5) 健康状態の維持・改善に関する事。
- 2 心理的な安定
 - (1) 情緒の安定に関する事。
 - (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。
 - (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
- 3 人間関係の形成
 - (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。
 - (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。
 - (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。
 - (4) 集団への参加の基礎に関する事。
- 4 環境の把握
 - (1) 保有する感覚の活用に関する事。
 - (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。
 - (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。
 - (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。
 - (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
- 5 身体の動き
 - (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
 - (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。
 - (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。
 - (4) 身体の移動能力に関する事。
 - (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
- 6 コミュニケーション
 - (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
 - (2) 言語の受容と表出に関する事。
 - (3) 言語の形成と活用に関する事。
 - (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
 - (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

自立活動年間指導目標設定に向けた指導すべき課題の抽出・関連シート

()部 第()学年 児童生徒指名() 記入日(令和 年 月 日)

A 児童生徒の実態把握

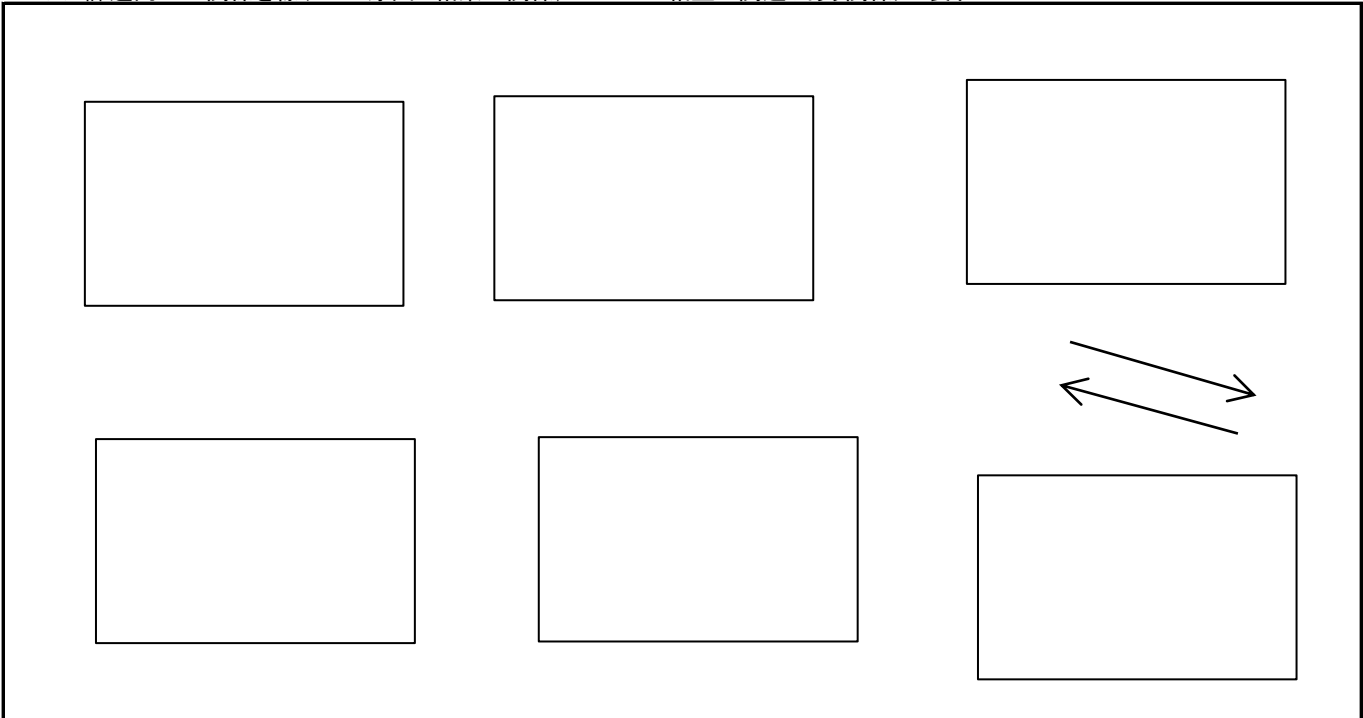
記入者()

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成
4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション

B ○年後の姿(学部終了を見据えて1～3年で整理する。)

C 指導すべき課題相互の関連の図式化

※ 課題同士の関係を線(← 原因と結果の関係, ← → 相互に関連しあう関係)で表す



D 今年度の課題・目標

E 指導目標を達成するために必要な重点項目

区分	項目	重点項目	区分	項目	重点項目
1健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事		2心理的な安定	(1) 情緒の安定に関する事	
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事			(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事			(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事				
	(5) 健康状態の維持・改善に関する事				
3人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事		4環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関する事	
	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事			(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	
	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事			(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	
	(4) 集団への参加の基礎に関する事			(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	
				(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	
5身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事		6コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事	
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事			(2) 言語の受容と表出に関する事	
	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事			(3) 言語の形成と活用に関する事	
	(4) 身体の移動能力に関する事			(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事			(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事	

自立活動アセスメントシートについて

1 自立活動アセスメントシートとは

○自立活動アセスメントシートは、平成26年度から活用の自立活動アセスメントシートを、平成29年度公示の新学習指導要領を踏まえて改訂したものです。自立活動を主観点として、児童生徒の実態把握を深め、根拠を明確にし、目標設定の検討や指導方法の改善など、自立活動の指導の充実を目指しています。

主な特徴は次のとおりです。

- ・自立活動(6区分27項目)の6区分ごとに実態把握シートが分かれています。「5 身体の動き」については、指導の更なる充実を目指すため、別紙として「上肢の動きのチェックシートVer.2」を加えています。
- ・各区分の項目に応じて、肢体不自由を重点とした実態把握の内容を設定しています。教育課程にかかわらず、本校の多様な児童生徒実態に応じられるよう幅の広い内容を設定しています。
- ・実態把握シートの記入については、全ての内容ではなく、児童生徒の実態に応じて、課題設定の必要や指導上の留意点があれば、該当の内容のみ記入します。
- ・実態把握の内容をあらかじめ設定することにより、校内の肢体不自由教育に係る専門性の向上を目指します。
- ・設定された実態把握の内容を継続的に確認することにより、児童生徒の学習状況の評価や今後の見通しの検討に取り組みやすくなります。

作成に当たり、主な引用及び参考文献は次のとおりです。

特別支援学校学習指導要領説明会資料自立活動編(文部科学省 平成29年)、医療的ケアハンドブック(広島県教育委員会 平成19年)、肢体不自由(運動障害)のある生徒等のためのアセスメント(広島県教育委員会 平成28年)、自立活動学習内容要素表(長崎自立活動研究会 平成22年)

2 自立活動の内容について(6区分) ※各区分での項目ごとの意味は、シートに示しています。

- 「1 健康の保持」・・・生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る観点からの内容
- 「2 心理的な安定」・・・自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く観点からの内容
- 「3 人間関係の形成」・・・自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点からの内容
- 「4 環境の把握」・・・感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする観点からの内容
- 「5 身体の動き」・・・日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする観点からの内容
- 「6 コミュニケーション」・・・場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点からの内容

3 記入の仕方について

○ 実態のチェックの付け方(実態把握シート)

「ある・ない」、「ある・ない・不明」、「一定・変動」、「好む・好まない」等 → 状態が見られるか、見られないかで判断します。

「◎・○・△・□」 → ◎・・・ほぼできる、常に見られる、一人でできる (8~10割)
 ○・・・おおよそできる、半分以下の支援でできる、おおよそ見られる (できる>できない, 見られる>見られない)
 △・・・時々できる、半分以上の支援があればできる、時々見られる (できる<できない, 見られる<見られない)
 □・・・できない、見られない

○ 記述欄の書き方(実態把握シート) → ()や該当の欄に、シートの文言等に従って、児童生徒の具体的な様子を記入します。特別支援学校学習指導要領説明会資料自立活動編(文部科学省 平成29年)p420~474(第6章 自立活動の内容)が参考になります。具体的な様子が複数行になり、セルにおさまらない場合は、セルの高さを伸ばして書式を調節してください。文字のフォント数があまり小さくならないようにします。

○ 実態把握シート → 課題の抽出・関連整理シート(関連の整理の図式化作業を含む) → 自立活動年間指導目標 , の順に記入します。

○ 「自立活動年間指導目標」及び「各シート」の学部・学年・児童生徒氏名等の編集はヘッダーの編集で行います。

4 記入例

(1)生活のリズムや生活習慣の形成

→ 体温の調節、覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身に付けること、食事や排泄などの生活習慣の形成、衣服の調節、室温の調節や換気、感染予防のための清潔の保持など健康な生活環境の形成を図ること

タブにあるいくつかの選択肢の中から該当するものを選んでクリックします。

内容		実態	
覚醒と睡眠のリズム	日中は目覚めている	○	週明けは午前中寝ることが多い
	夜は眠れている(時間, 質)	△	睡眠が浅く1~2時間ごとに目が覚める
	覚醒が下がる時間	一定	給食後に少し眠る
体力	病気による欠席日数	年間 日	どのように
	一年間で体調を崩しやすい時期, 月	ある	季節の変わり目ごとに膝・腰・足首など痛みが出たりする

実態の記入をする場合は、該当の内容及び実態のセルを塗りつぶして色を着けます。

自立活動アセスメントシート（1 健康の保持）

※ 各内容で課題設定の必要、指導上の留意点があれば該当の枠内を塗りつぶし、概要のチェックと具体的な実態を記入する

疾患と健康状態【※必ず全て記入する】

禁忌事項	アレルギー	ある・ない	何に(ハウスダスト, スギ花粉, 卵, 牛乳, そば, 小麦等)
	やってはいけない動き	ある・ない	どのような
	活動量の制限	ある・ない	どの程度
	その他, 主治医からの禁止事項		
病名・診断名等	□脳性まひ(原因疾患:), □神経・筋疾患(診断名:), □二分脊椎(顕在性・潜在性), □骨・関節疾患(診断名:), □その他(診断名:)		
症状・合併症	てんかん発作	ある・ない	どのような(発作の種類・頻度・誘因等)
	脱臼	ある・ない	部位・程度(右股関節脱臼, 左股関節垂脱臼, 左肩関節垂脱臼等)
	呼吸障害	ある・ない	どのような(咽頭軟化症, 睡眠時無呼吸症, 喘息, 鼻翼呼吸, 陥没呼吸, 肩呼吸, SPO ₂ 等)
	循環障害	ある・ない	どのような(高血圧, 不整脈, むくみ等)
	嚥下障害	ある・ない	どのような
	その他	ある・ない	どのような
薬	服薬	ある・ない	どのような(種類, 服薬時間等)
医療的ケア	ある・ない	どのような(口腔内吸引, 吸入, 経鼻胃管栄養, 胃ろう等)	
手術歴	ある・ない	いつ・どのような	

(1) 生活のリズムや生活習慣の形成

→ 体温の調節, 覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身に付けること, 食事や排泄などの生活習慣の形成, 衣服の調節, 室温の調節や換気, 感染予防のための清潔の保持など健康な生活環境の形成を図ること

内容		実態	
覚醒と睡眠のリズム	日中は目覚めている	◎・○・△・□	どのように
	夜は眠れている(時間, 質)	◎・○・△・□	どのように
	覚醒が下がる時間	一定・変動	どのように
体力	病気による欠席日数	年間 日	どのように
	一年間で体調を崩しやすい時期, 月	ある・ない	どのように
呼吸	咳反射がある	◎・○・△・□	どのように
	下顎の後退がある	◎・○・△・□	どのように
	喘鳴がある	◎・○・△・□	どのように(舌根沈下, 分泌物の貯留等)
	胃に空気を貯めやすい	◎・○・△・□	どのように
体温調節	体温を一定に保てる	◎・○・△・□	どのように
	衣服や水分補給で調節ができる	◎・○・△・□	どのように
食事及び水分	一日の食事の時間や回数	朝(分)・昼(分)・夕方(分)・夜(分)	
	一回の食事量が十分摂れる	◎・○・△・□	どのように(かかる時間等)
	食物の調理形態	どのような(ミキサー食・カッター食・一口大・普通食・注入・その他等)	
	一日の水分量	水分量(m l)	摂取しているもの()
	摂取時の姿勢や介助方法	どのような	
口腔機能の状態	口を閉じられる	◎・○・△・□	どのように
	目的に応じて口を開けられる	◎・○・△・□	どのように
	口唇周辺の過敏がある	◎・○・△・□	どのように(上唇・下唇・頬・顎等)
	顎が上下に動く	◎・○・△・□	どのように
	顎が左右に動く	◎・○・△・□	どのように
	舌が突出している	◎・○・△・□	どのように
	舌が前後に動く	◎・○・△・□	どのように
	舌が上下に動く	◎・○・△・□	どのように

	舌が左右に動く	◎・○・△・□	どのように
	咀嚼ができる	◎・○・△・□	どのように
	誤嚥をしやすい	◎・○・△・□	どのように
嘔吐	嘔吐をしやすい	◎・○・△・□	どのように
排泄	排泄の時間はほぼ一定である	◎・○・△・□	どのように
	排泄の方法や使用物	自力・見守り・介助	どのような
	一回の排泄量(尿)	多・普・少	どのような
	一日の排泄量(便)	多・普・少	どのような
	下痢や便秘をしやすい	下痢・便秘・ない	どのように
	排泄のサインがある	◎・○・△・□	どのような
健康の習慣	健康を維持するための習慣が身に付いている	◎・○・△・□	どのように
こだわり	特定の食物や衣服に強いこだわりがある	◎・○・△・□	どのように
清潔・衛生	清潔・衛生の習慣が身に付いている	◎・○・△・□	どのように
身だしなみ	身だしなみの習慣が身に付いている	◎・○・△・□	どのように
整理・整頓	整理・整頓の習慣が身に付いている	◎・○・△・□	どのように

(2) 病気の状態の理解と生活管理

→ 自分の病気の状態を理解し、その改善を図り、病気の進行の防止に必要な生活様式についての理解を深め、それに基づく生活の自己管理ができるようにすること

内容		実態	
病気の状態の理解	自分の病気を知っている	◎・○・△・□	どのように
	自分の病気の状態や症状を理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分の病気の仕組みと治療方法を理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分の体調や病気の状態に留意している	◎・○・△・□	どのように
	自分の病気の状態等を適切に伝えられる	◎・○・△・□	どのように
生活の自己管理	服薬の管理ができる	◎・○・△・□	自分で飲める, 飲ませてもらったら飲める, 飲むことを嫌がる等
	自分の体調や病気の状態に応じて自ら健康管理できる	◎・○・△・□	どのように
	自分の病気の状態の改善や進行予防について行動できる	◎・○・△・□	どのように
	補装具の管理ができる	◎・○・△・□	どのように

(3) 身体各部の状態の理解と養護

→ 病気や事故等による神経, 筋, 骨, 皮膚等の身体各部の状態を理解し, その部位を適切に保護したり, 症状の進行を防止したりできるようにすること

内容		実態	
病気や事故等による身体各部の状態の理解	自分の身体各部の状態を理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分の身体の痛みや変化に気付ける	◎・○・△・□	どのように
	自分の身体の快適な状態を知っている	◎・○・△・□	どのように
病気や事故等による身体各部の状態の養護	快適な状態を保つために人に依頼できる	◎・○・△・□	どのように
	快適な状態を保つために自分で身体のケアができる	◎・○・△・□	どのように
	快適な状態を保つために自分で補装具の管理ができる	◎・○・△・□	どのように

(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整

→ 自己の障害にどのような特性があるのか理解し, それらが及ぼす学習上又は生活上の困難についての理解を深め, その状況に応じて, 自己の行動や感情を調整したり, 他者に対して主体的に働きかけたりして, より学習や生活をしやすい環境にしていこう

内容		実態	
自己の障害の特性の理解	自分の障害の状態を理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分の障害による特性を理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分の障害の特性による学習上又は生活上の困難を理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分の障害の状態やその特性による学習上又は生活上の困難を人に伝えられる	◎・○・△・□	どのように
生活環境の調整	状況に応じて, 自己の行動や感情を調整できる	◎・○・△・□	どのように
	状況に応じて, より過ごしやすきよう人に主体的に働きかけられる	◎・○・△・□	どのように

(5) 健康状態の維持・改善

→ 障害のため、運動量が少なくなったり、体力が低下したりすることを防ぐために、日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにすること

内容		実態	
呼吸・排痰	安定した呼吸を維持できる	◎・○・△・□	どのように
	自分で咳をして痰を出せる	◎・○・△・□	どのように(吸引器や呼吸器の使用状況等)
	姿勢変換などで痰を出せる	◎・○・△・□	どのような姿勢で
自己管理	健康維持・改善のための運動等の習慣がある	◎・○・△・□	どのような
	ストレスを適切に発散する方法を知っている	◎・○・△・□	どのように
	食事量を自分で考えられる	◎・○・△・□	どのように
	自分の体調を人に伝えられる	◎・○・△・□	どのように

その他

--

自立活動アセスメントシート（2 心理的な安定）

※ 各内容で課題設定の必要、指導上の留意点があれば該当の枠内を塗りつぶし、概要のチェックと具体的な実態を記入する

（1）情緒の安定

→ 情緒の安定を図ることが困難な児童生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにすること

内容		実態	
情緒の芽生え	快・不快の表出がある	ある・ない・不明	どのように
	喜怒哀楽の表出がある	ある・ない・不明	どのように
気持ちの安定	情緒が不安定になることがある	◎・○・△・□	考えられる要因や原因
	心理的に緊張しやすく、ストレスを感じやすい	◎・○・△・□	考えられる要因や原因
	不安や緊張が高まる原因を知っている	◎・○・△・□	どのように
	気持ちを落ち着ける方法がある	ある・ない	どのような
	気持ちを伝える手段を身に付けている	◎・○・△・□	どのように
	自分に合った集中の仕方や課題への取り組み方を身に付けている	◎・○・△・□	どのように
	好きなものや得意なことがある	ある・ない	どのような
	嫌いなものや苦手なことがある	ある・ない	どのような
	自分に自信が持っている	◎・○・△・□	どのように
自分のよさに気付いている	◎・○・△・□	どのように	
常同行動等	常同行動が見られる	◎・○・△・□	どのような どんな時に、どのくらい、増えてきた、減ってきた
	自傷行為・他傷行為が見られる	◎・○・△・□	どのような どんな時に、どのくらい、増えてきた、減ってきた
	こだわっているもの、人、場所がある	ある・ない	何、だれ、どこ どんな時に、どのくらい、増えてきた、減ってきた

（2）状況の理解と変化への対応

→ 場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けること

内容		実態	
状況の理解	活動内容の理解ができる	◎・○・△・□	どのように
	活動の順序の理解ができる	◎・○・△・□	どのように
	場所や場面の状況を理解できる	◎・○・△・□	どのように
	場所や場面の状況の変化について尋ね、情報を得られる	◎・○・△・□	どのように
変化への対応	慣れない場所、初めての人でも対応できる	◎・○・△・□	どのように
	時間や日程、活動内容の変更に対応できる	◎・○・△・□	どのように
	人前や集団の中で落ち着いて行動できる	◎・○・△・□	どのように
	場所や場面の状況の変化に対応できる	◎・○・△・□	どのように
	こだわりによらず、次の活動や場面に切り替えられる	◎・○・△・□	どのように

（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲

→ 自分の障害の状態を理解したり、受容したりして、主体的に障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図ること

内容		実態	
困難を改善・克服する意欲	自分の障害の状態について理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分の障害の状態について受容している	◎・○・△・□	どのように
	学習などで打ち込めることがある	◎・○・△・□	どのように
	いろいろな人の話を聞いたり、かわりを持ったりする意欲がある	◎・○・△・□	どのように
	得意なことを活用しようとする意欲がある	◎・○・△・□	どのように
	不得意なことにも積極的に立ち向かう意欲がある	◎・○・△・□	自分でできるか・教師と一緒にできるか

その他



自立活動アセスメントシート（3 人間関係の形成）

※ 各内容で課題設定の必要、指導上の留意点があれば該当の枠内を塗りつぶし、概要のチェックと具体的な実態を記入する

（1）他者とのかかわりの基礎

→ 人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにすること

内容		実態	
人への 関心	かかわりに対して、明確な反応がある	◎・○・△・□	どんなかかわりでどんな反応が
	特定の人とかかわりを持てる	◎・○・△・□	だれと 保護者・兄弟・祖父母・担任等
			どんなかかわりでどんな反応が、受動、能動
	好きなかかわりがある	ある・ない・不明	くすぐり・抱っこ・歌い掛け等
	特定の人以外でもかかわりを持てる	◎・○・△・□	だれと・どのように
	周囲の人とかかわりを持てる	◎・○・△・□	だれと・どのように、受動、能動
自分から人に働き掛けられる	◎・○・△・□	だれに・どのように	
かかわり方	決まったやりとりの方法がある	ある・ない	どのような
	相手とかかわりやすいよう行動できる	◎・○・△・□	どのように

（2）他者の意図や感情の理解

→ 他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動をとることができるようにすること

内容		実態	
気持ちの 共有	かかわる相手に顔や視線を向けられる（注意を向けているか）	◎・○・△・□	どのように
	相手のかかわりを期待するような様子が見られる	◎・○・△・□	どんなかかわりでどんな反応が
	かかわる相手と同じものや同じ方向に注意を向ける様子が見られる	◎・○・△・□	どのように
相手の意 図や感情 の理解及 び対応	「ちょうだい」「とって」などに応じられる	◎・○・△・□	どんな働き掛けでどのように
	言葉や表情、身振りなどから総合的に相手の意図や感情を理解できる	◎・○・△・□	どのように
	相手の立場や考えを推測して対応できる	◎・○・△・□	どのように

（3）自己の理解と行動の調整

→ 自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようになること

内容		実態	
自己の 理解	自分でできること、できないことを理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分の行動の特徴を理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分の感覚や認知の特性を理解している	◎・○・△・□	どのように
	自分に肯定的な感情を持っている	◎・○・△・□	どのように
集団の中 での行動 調整	補助的な手段を活用できる	◎・○・△・□	どんな手段を
	難しい時には依頼できる	◎・○・△・□	だれに・どのように
	状況に合わせて行動できる	◎・○・△・□	どのように

（4）集団への参加の基礎

→ 集団の雰囲気に合わせてたり、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようになること

内容		実態	
集団参加 への理解	集団の雰囲気に合わせられる	◎・○・△・□	どのように
	集団に参加するための手順やきまりなどを理解している	◎・○・△・□	どのように
	集団に参加するための手順やきまりなどの情報を自ら入手できる	◎・○・△・□	どのように
遊びや 集団活動 への参加	規模に応じた集団での活動に参加できる	集団の規模・どのように	
	集団活動に参加するためのツールがある	ある・ない	どのように
	支援があれば集団活動のルールやきまりに従って行動できる	集団の規模・どのように	
	一人で集団活動のルールやきまりに従って行動できる	集団の規模・どのように	

その他

--	--

自立活動アセスメントシート（4 環境の把握）

※ 各内容で課題設定の必要、指導上の留意点があれば該当の枠内に塗りつぶし、概要のチェックと具体的な実態を記入する

（1）保有する感覚の活用

→ 保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるようにすること

内容		実態	
感覚の 識別・反応	視覚による反応	ある・ない	どんな刺激でどのように(受容, 拒否等)
	聴覚による反応	ある・ない	どんな刺激でどのように(受容, 拒否等)
	触覚による反応	ある・ない	どんな刺激でどのように(受容, 拒否等)
	嗅覚による反応	ある・ない	どんな刺激でどのように(受容, 拒否等)
	味覚による反応	ある・ない	どんな刺激でどのように(受容, 拒否等)
	固有受容覚による反応(関節や筋肉の動き)	ある・ない	どんな刺激でどのように(受容, 拒否等)
	前庭感覚による反応(揺れや振動, 回転, 姿勢の変化)	ある・ない	どんな刺激でどのように(受容, 拒否等)
感覚の 活用	保有するそれぞれの感覚ごとに, 学習や日常生活に必要な情報を収集できる	◎・○・△・□	どのように
	保有する複数の感覚を関連させて活動できる	◎・○・△・□	どのように
	保有する複数の感覚を協調させて行動調整ができる	◎・○・△・□	どのように

（2）感覚や認知の特性についての理解と対応

→ 感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、特に自己の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性について理解し、適切に対応できるようにすること

内容		実態	
感覚の 特性 と その理解	光などでまぶしそうにする	◎・○・△・□	どのような場面で, 反応の増減は
	苦手な音がある	ある・ない	どのような場面で, 反応の増減は
	触覚の過敏がある	ある・ない	どのような場面で, 反応の増減は
	苦手なおいがある	ある・ない	どのような場面で, 反応の増減は
	激しい揺れや回転を好む	好む・好まない	どのような場面で, 反応の増減は
	身体が常に動いている	◎・○・△・□	どのような場面で, 反応の増減は
	強い圧刺激を好む	好む・好まない	どのような場面で, 反応の増減は
	もの(食べもの以外)を口に入れて噛む	◎・○・△・□	どのような場面で, 反応の増減は
	姿勢の変換を怖がる・嫌がる	◎・○・△・□	どのような場面で, 反応の増減は
	得意な感覚	視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚・固有覚・前庭覚等の得意な様子	
	不得意な感覚	視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚・固有覚・前庭覚等の不得意な様子	
	自己の感覚の特性を理解している	◎・○・△・□	どのように
言葉や数の 学習に 関わる認知の特性 と その理解	学習内容に注意を持続できる	◎・○・△・□	どのように
	会話や音読を聞いて記憶できる	◎・○・△・□	どのように
	全ての音韻を聞き分けられる	◎・○・△・□	どのように
	黙読で文を追視できる	◎・○・△・□	どのように
	漢字や図形の要素の位置関係が把握できる	◎・○・△・□	どのように
	示された文や図から, 指示された内容に注目できる	◎・○・△・□	どのように
	自己の認知の特性を理解している	◎・○・△・□	どのように
感覚や認知の特性 への対応	自分の感覚や認知の特性について周囲に説明できる	◎・○・△・□	どのように
	自分の得意な感覚や認知を自ら活用できる	◎・○・△・□	どのように
	自分の不得意な感覚や認知に自ら対応できる	◎・○・△・□	どのように

（3）感覚の補助及び代行手段の活用

→ 保有する感覚を用いて状況を把握しやすくするよう各種の補助機器を活用できるようにしたり, 他の感覚や機器での代行が的確にできるようにしたりすること

内容		実態	
感覚の補助及び代行手段	感覚を補助するための補助機器を使用している	ある・ない	どんな機器を
	困難や不得意な感覚を他の感覚や機器で補っている	ある・ない	どんな手段や方法で

感覚の補助及び代行手段の活用	補助及び代行手段について理解している	◎・○・△・□	どのように
	補助及び代行手段について周囲に説明できる	◎・○・△・□	どのように
	補助及び代行手段について自ら活用できる	◎・○・△・□	どのように
	補助及び代行手段について自ら工夫できる	◎・○・△・□	どのように

(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動

→ いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動ができるようにすること

内容		実態	
ボディイメージ	身体の部位の名前や位置を理解している	◎・○・△・□	どの部位
	簡単な動作模倣をする	◎・○・△・□	どんな動きを
	自分の身体を基点とした、位置・方向・遠近の概念を理解している	◎・○・△・□	どのように
触知覚	触って手触りの変化に気付く	◎・○・△・□	どんなものが・どの程度
	触って物の違いに気付く	◎・○・△・□	どんなものが・どの程度
聴知覚	音や声のする方に注意を向けられる	◎・○・△・□	どんな音に・どんな反応
	音や声の違いに気付く	◎・○・△・□	どんな音や声に・どんな反応
	好きな音や音楽で表出できる	◎・○・△・□	どんな音や音楽で・どんな表出を
注視	注視できる距離	□眼前・□手元・□対面の人・□ホワイトボード・□教室の外・□全校集会の出し物・□その他()	
	注視しやすい位置	□中心・□右側・□左側・□上方・□下方	
	注視の持続時間	□一瞬・□5秒未満・□7秒以上	
追視	追視できる距離	□眼前・□机の上・□絵本・□ホワイトボード・□教室の外・□体育館・□その他()	
	追視できる速さ	□目の前で動く人形・□歩く人・□転がるボール(平面)・□転がるボール(緩やかな斜面)・□転がるボール(急な斜面)・□投げられたボール・□その他()	
	眼球の動き	□左右に動く・□上下に動く・□正中交差できる	
目と手の協応	物を見て手を伸ばす	◎・○・△・□	どのように
	物を見てつかみとる	◎・○・△・□	どのように
	見ながら物を入れる	◎・○・△・□	どのように
	見ながら物を置く	◎・○・△・□	どのように
感覚等の総合的な活用	複数の感覚や補助及び代行手段を総合的に活用して、周囲の情報を的確に収集できる	◎・○・△・□	どのように
	複数の感覚や補助及び代行手段を総合的に活用して、周囲の状況を的確に把握できる	◎・○・△・□	どのように
	複数の感覚や補助及び代行手段を総合的に活用して、的確な判断や行動ができる	◎・○・△・□	どのように

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成

→ ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるようにすること

内容		実態	
空間関係	上・下が分かる	◎・○・△・□	どのように・どんな場面
	左・右が分かる	◎・○・△・□	どのように・どんな場面
	前・後が分かる	◎・○・△・□	どのように・どんな場面
	高・低が分かる	◎・○・△・□	どのように・どんな場面
	遠・近が分かる	◎・○・△・□	どのように・どんな場面
記憶	目の前で隠されたものを探し出せる	◎・○・△・□	どのように
	直前に見たものを覚えられる	◎・○・△・□	どのように
	身近な音を聞き分けられる	◎・○・△・□	どのように
	言われたことを復唱(指差し含む)できる	◎・○・△・□	どのように
	複数の指示に応じて行動できる	◎・○・△・□	どのように
	図と地の弁別ができる	◎・○・△・□	どのように・どの程度
	絵や写真の見分けができる	◎・○・△・□	どのように・どの程度

弁別	色の違いの見分けができる	◎・○・△・□	どのように
	形の違いの見分けができる	◎・○・△・□	どのように(丸・三角・正方形・長方形・ひし形・平行四辺形・六角形等)
	文字や数字の弁別ができる	◎・○・△・□	どのように
分類	物の特徴で分類できる	◎・○・△・□	どのように(形・色・大きさ・厚さ・感触等)
	物の種類で分類できる	◎・○・△・□	どのように(大分類・中分類・小分類への着目)
	物の用途で分類できる	◎・○・△・□	どのように(着る, 見る等)
	物と物の関連で分類できる	◎・○・△・□	どのように(学習道具同士, 給食に必要な道具等)
全体と部分の関係	分割された絵や形を組み合わせて全体を作れる	◎・○・△・□	どのように
	絵や形の一部から全体を理解できる	◎・○・△・□	どのように
数量	大・小が分かる	◎・○・△・□	どのように
	多い・少ないが分かる	◎・○・△・□	どのように
時間	時間の長さが分かる	◎・○・△・□	どのように(秒・分・時・日・週・月・年)
	時間の経過が分かる	◎・○・△・□	どのように
	残り時間が分かる	◎・○・△・□	どのように
	時刻が分かる	◎・○・△・□	どのように
概念の活用	概念を認知や行動の手掛かりに活用できる	◎・○・△・□	どのように

その他

--

自立活動アセスメントシート (5 身体の動き) ※上肢の動きについては、別紙のチェックシートを加える

※ 各内容で課題設定の必要、指導上の留意点があれば該当の枠内を塗りつぶし、概要のチェックと具体的な実態を記入する

(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能

→ 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ることなどの基本的技能に関すること

内容		実態	
身体の状態	原始反射, 連合反応, 不随意運動, 手足の震え等	ある・ない	どのような
	まひ	ある・ない	どのような(痙直, 不随意, 失調, 低緊張, 混合, 片まひ, 四肢まひ, 両まひ, 対まひ等)
	側弯	ある・ない	どのような
	身体の非対称性(肩や耳の高さ, 骨盤の傾き等)	ある・ない	どのような
	体幹の支持性	◎・○・△・□	どのような
	手の状態	どのような(握っている, 開いている, 拘縮している等)	
	足の状態	どのような(内反, 外反, 反張膝, 偏平足, 尖足等)	
	首の状態	どのような(座り, 傾き, 保持等)	
	筋力の低下	ある・ない	どのように
	緊張	緊張の状態	どのような(高い, 低い, 適度, 変動等)
緊張の入りやすい姿勢		どのような	
緊張の入りやすい部位		首・肩・背中・腰・下肢・手首・足首等	
緊張の緩みやすい姿勢		どのような	
緊張の緩みやすい部位		首・肩・背中・腰・下肢・手首・足首等	
姿勢	授業で一番長く取っている姿勢	背臥位, 腹臥位, 側臥位, 座位(前傾位・後傾位)等	どんな場面で
	給食で一番長く取っている姿勢	背臥位, 腹臥位, 側臥位, 座位(前傾位・後傾位)等	
	家庭や園で一番長く取っている姿勢	背臥位, 腹臥位, 側臥位, 座位(前傾位・後傾位)等	どんな場面で
	就寝で一番長く取っている姿勢	背臥位, 腹臥位, 側臥位, 座位(前傾位・後傾位)等	どの位
姿勢の種類	姿勢の取り方(自力や介助, マットやパットの使用, 机や壁の利用等)	背臥位	どのように
		腹臥位	どのように
		パピイポジション	どのように
		側臥位	どのように
		長座	どのように
		正座	どのように
		割座	どのように
		あぐら座	どのように
		いす座位	どのように
		四つ這い位	どのように
		膝位	どのように
立位	どのように		
動作の種類, 方法	寝返り	◎・○・△・□	どのように(左右差, 距離, 自力度等)
	起き上がり	◎・○・△・□	どのように(左右差, 自力度等)
	立ち上がり	◎・○・△・□	どのように(左右差, 自力度等)
	しゃがみ	◎・○・△・□	どのように(左右差, 自力度等)
応用動作	走る, ジャンプ, 片足立ち, 階段の上り下り, スキップ	◎・○・△・□	可能な動作
	投げる, 受ける, 蹴る, くぐる, またぐ	◎・○・△・□	可能な動作
	代償動作	ある・ない	どのような

姿勢、運動・動作の調整	座位や立位が崩れないように、一定の姿勢を保ち続けられる	◎・○・△・□	どのように
	指示に応じて姿勢、運動・動作を調整できる	◎・○・△・□	どのように
	モデルに応じて姿勢、運動・動作を調整できる	◎・○・△・□	どのように

(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用

→ 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるようにすること

内容		実態		
使っている補装具の種類と目的・内容	臥位保持装置(背, 側, 腹)	目的・内容		
	車いす	目的・内容		
	座位保持装置付き車いす	目的・内容		
	歩行器	目的・内容		
	杖	目的・内容		
	装具	目的・内容		
補装具の作成時期, 変更や修正の必要性の有無	臥位保持装置(背, 側, 腹)	(作成時期) 平成 年 月	(変更や修正の必要性) ある・ない	(変更や修正の必要性な箇所)
	車いす	(作成時期) 平成 年 月	(変更や修正の必要性) ある・ない	(変更や修正の必要性な箇所)
	座位保持装置付き車いす	(作成時期) 平成 年 月	(変更や修正の必要性) ある・ない	(変更や修正の必要性な箇所)
	歩行器	(作成時期) 平成 年 月	(変更や修正の必要性) ある・ない	(変更や修正の必要性な箇所)
	杖	(作成時期) 平成 年 月	(変更や修正の必要性) ある・ない	(変更や修正の必要性な箇所)
	装具	(作成時期) 平成 年 月	(変更や修正の必要性) ある・ない	(変更や修正の必要性な箇所)
補助用具	使用している補助用具(補装具を除く)	どのように学習道具や学習環境等を工夫しているか等		
	補助用具を自己管理できる	◎・○・△・□	どのように	
	補助用具を効果的に活用できる	◎・○・△・□	どのように	

(3) 日常生活に必要な基本動作

→ 食事, 排泄, 衣服の着脱, 洗面, 入浴などの身辺処理及び書字, 描画等の学習のための動作などの基本動作を身に付けることができるようにすること

内容		実態		
基本動作の習得	座位を取り, 両腕を身体の前へ伸ばせる	◎・○・△・□	どのように	
	身体の正面で両手を合わせ, 指を握ったり開けられる	◎・○・△・□	どのように	
	身体のほとんどの部位へ指先が届けられる	◎・○・△・□	どのように	
	手の動きを目で追える	◎・○・△・□	どのように	
可能な日常生活動作	食事動作	どのように(手づかみ・フォーク・スプーン・箸等)		
	排泄動作	どのように(座位・立位・衣服の着脱・紙で拭く・水を流す等)		
	更衣動作	どのように(着脱に協力する, トレーナーを脱ぐ・かぶる, ボタンをはずす・留める, ズボンをはく・脱ぐ, 靴下を脱ぐ・はく, 靴を脱ぐ・はく等)		
	歯磨き	どのように(歯ブラシを握る・歯ブラシを動かす・奥歯を磨く・上下の歯を磨く・うがいをする等)		
日常生活動作の遂行	援助を受けやすい姿勢や手足の動かし方を身に付けている	◎・○・△・□	どのように	
	細かな手指の動作を身に付けている	◎・○・△・□	どのように	
	動作の遂行に集中して取り組める	◎・○・△・□	どのように	
	動作の遂行に意欲的に取り組める	◎・○・△・□	どのように	

(4) 身体の移動能力

→ 自力での身体移動や歩行, 歩行器や車いすによる移動など, 日常生活に必要な移動能力の向上を図ること

内容		実態		
移動	歩行	自力歩行	◎・○・△・□	どのように
		介助歩行(後方)	◎・○・△・□	どのように
		介助歩行(前方)	◎・○・△・□	どのように
		介助歩行(側方)	◎・○・△・□	どのように
		杖	◎・○・△・□	どのように
		歩行器	◎・○・△・□	どのように
	車いす	操作	◎・○・△・□	どのように(左右差, 距離, 自力度等)
		乗り降り	◎・○・△・□	どのように(左右差, 距離, 自力度等)
	移動手段	寝返り	◎・○・△・□	どのように
		肘這い	◎・○・△・□	どのように
		四つ這い	◎・○・△・□	どのように
		いざり這い	◎・○・△・□	どのように
		ずり這い	◎・○・△・□	どのように
		割座移動 (パニーホップ)	◎・○・△・□	どのように
		背這い	◎・○・△・□	どのように
		膝歩き	◎・○・△・□	どのように
その他	◎・○・△・□	どのように		
移動の 状況	目的地まで移動し続ける体力がある	◎・○・△・□	どのように・移動距離	
	目的地まで一人で移動できるかどうか判断できる	◎・○・△・□	どのように	
	一人での移動が難しいときに周囲に援助を求められる	◎・○・△・□	どのように	
	一人での移動が難しいときの安全が確保できる方法が身に付いている	◎・○・△・□	どのように	

(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行

→ 作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに、作業を円滑に遂行する能力を高めること

内容		実態	
優位性	利き手	右・左・不明	どのような
	利き目	右・左・不明	どのような
	利き足(動きやすい, 踏ん張れる)	右・左・不明	どのような
力	手や肘で押さえたり支えたりする	◎・○・△・□	どのように
	ものを持って操作する	◎・○・△・□	どのように(机上, 空中, 時間等)
	握る力がある	◎・○・△・□	どんなものを握れるか(粘土, マジック, えんぴつ等)
	適度に力を入れたり緩めたりする	◎・○・△・□	適度な力加減, 適度な筆圧で書けるか等
操作性	左右の手の異なる動きがある	◎・○・△・□	操作する手と支える手の分化した動きはどうか
	リーチ(正確な距離に伸ばせるか)	◎・○・△・□	どのように
	つかむ	◎・○・△・□	どのように
	手を開く, ものを放す	◎・○・△・□	目的の場所で放せるか
	つまむ	◎・○・△・□	どのように
円滑な 遂行	イメージした動きどおりに身体を動かせる	◎・○・△・□	どのように
	ものを正確に操作できる	◎・○・△・□	どのように
	ものを速く操作できる	◎・○・△・□	どのように
	ものを丁寧に操作できる	◎・○・△・□	どのように
	ものを最後まで集中して操作できる	◎・○・△・□	どのように
	自分のやり方にこだわらずものの操作ができる	◎・○・△・□	どのように

手本を見て, ものの操作の調整や改善ができる

◎・○・△・□

どのように

その他

自立活動アセスメントシート(6 コミュニケーション)

※ 各内容で課題設定の必要、指導上の留意点があれば該当の枠内に塗りつぶし、概要のチェックと具体的な実態を記入する

(1) コミュニケーションの基礎的能力

→ 障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けること

内容		実態	
表出	いろいろな刺激に表情や身振り、しぐさで表す	◎・○・△・□	なにに・どのように
	人とのかかわりで表情や身振り、しぐさで表す	◎・○・△・□	どのように
意思や要求の伝達	意思や要求があるときの表現がある	◎・○・△・□	発声・表情・視線・身体の動き等 () 具体的な表現() 意思や要求の表出される場面 ()
	様々な行動をコミュニケーション手段として適切に活用できる	◎・○・△・□	どのように
働き掛け	理解できる働き掛けがある	◎・○・△・□	言葉掛け・指差し・身振り・身体への接触等
指差し模倣相互関係	教師が指差したものを見る	◎・○・△・□	どのように
	簡単な動作の模倣をする	◎・○・△・□	どのように
	教師とやりとりをする	◎・○・△・□	どのように
	ものを介して教師とやりとりをする	◎・○・△・□	どのように

(2) 言語の受容と表出

→ 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにすること

内容		実態	
意思の表出	手段を用いて応答できる	◎・○・△・□	表情・発声・視線・具体物等
	身振りなどで要求を伝えられる	◎・○・△・□	どのように
	要求の対象を選択できる	◎・○・△・□	どのように
	いろいろな意味の指差しをする	◎・○・△・□	どのように
	身振りやサイン等で要求を伝えられる	◎・○・△・□	どのように
	シンボルや文字で要求を伝えられる	◎・○・△・□	どのように
言葉の理解	呼名に反応する	◎・○・△・□	発声・表情・身体の動き・緊張・運動の停止・呼吸の変化・眼球の動き等
	身近な人の名前が分かる	◎・○・△・□	どのように
	写真や絵に示された物の名前をいくつか知っている	◎・○・△・□	どのような
	動きを表す言葉をいくつか知っている	◎・○・△・□	どのような
	禁止の言葉を理解している	◎・○・△・□	どのように
	「おしまい」が分かる	◎・○・△・□	どのように
	非言語的な方法で言葉が理解できる	◎・○・△・□	身振り・表情・具体物・場面設定等
発語機能	呼吸を調整できる	◎・○・△・□	楽な呼吸・息を出せる・息を止める等
	発声ができる	◎・○・△・□	どのように
	口腔周辺を動かされる	◎・○・△・□	口唇・舌・顎・頬等
	単音を発音できる	◎・○・△・□	五十音、濁音、半濁音、拗音、促音、長音
	明瞭に言葉を発音・発語、発話できる	◎・○・△・□	どのように
	流暢に言葉を発音・発語、発話できる	◎・○・△・□	どのように
	意味のある言葉を表出できる	◎・○・△・□	どのように
	音を弁別できる	◎・○・△・□	どのように

(3) 言語の形成と活用

→ コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるようにすること

内容		実態	
音声	場面に応じて音声で表現できる	◎・○・△・□	どのように
言葉の理解	文字や文章を読んで理解できる	◎・○・△・□	どのように
	抽象的な言葉を理解して表現できる	◎・○・△・□	どのように

文の習得	単語で伝えられる	◎・○・△・□	どのように
	言葉を組み合わせて表現できる	◎・○・△・□	どのように
	文章で表現できる	◎・○・△・□	どのように
	多くの語彙で的確や正確に思いや考えを伝えられる	◎・○・△・□	どのように

(4) コミュニケーション手段の選択と活用

→ 話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにすること

内容		実態	
絵やシンボル等	写真や絵カードを活用できる	◎・○・△・□	どのように
	コミュニケーションボードを活用できる	◎・○・△・□	どのように
身振りやサイン等	身振りやサイン等を活用できる	◎・○・△・□	どのように
文字	文字の書かれたカードを活用できる	◎・○・△・□	どのように
	文字板を活用できる	◎・○・△・□	どのように
	筆談で伝えられる	◎・○・△・□	どのように
機器	コミュニケーション支援機器を活用できる	◎・○・△・□	スイッチ・VOCA・キーボード型機器・タブレット型端末等
選択と活用	コミュニケーション手段を自己選択・自己決定できる	◎・○・△・□	どのように

(5) 状況に応じたコミュニケーション

→ 場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるようにすること

内容		実態	
状況に応じたコミュニケーション	相手の立場や気持ちに応じた行動や言葉づかいができる	◎・○・△・□	どのように
	周りの状況に応じたふさわしい言葉づかいができる	◎・○・△・□	どのように
	周りの状況に応じた声の大きさの調節や話し方ができる	◎・○・△・□	どのように
	相手の会話の内容を自分でまとめながら聞ける	◎・○・△・□	どのように
	分からないときに聞き返してコミュニケーションを展開できる	◎・○・△・□	どのように
	相手の表情に注目してコミュニケーションを展開できる	◎・○・△・□	どのように

その他

--